

バイオマスのエネルギー利用に関する目標設定について（報告）

1 経緯

- （１）再生可能エネルギー等に関する規制等の総点検タスクフォースは、カーボンニュートラル社会の実現に向けて、再生可能エネルギー等に関する規制等を総点検し、必要な規制見直しを促すため、内閣府特命担当大臣（規制改革）の下に設置されたもの。
- （２）昨年７月２日に開催されたタスクフォースで、次期バイオマス活用推進基本計画においてバイオマスのエネルギー利用に関する目標設定について意見があった。

【タスクフォースにおける意見】

- 次期バイオマス活用推進基本計画において、エネルギー基本計画の改定の進捗を見極めつつ、食品廃棄物に関しては、メタン化などのエネルギー利用等を進め、年限を定めて適正処理（単なる焼却（発電なし）・埋立て）をなくすための取組を進めるべき。
- バイオマスの種類ごとの利用率目標の再設定に止まらず、エネルギー利用率の目標を定めるべき。

【農林水産省の回答】

- 脱炭素に向けたバイオマスのエネルギー利用を推進する観点から、今年度（令和４年度）中に改訂予定の次期バイオマス活用推進基本計画において、食品廃棄物を含むバイオマスのエネルギー利用に関する目標の設定について関係省庁等と協議の上検討する。

2 バイオマスの利用に関する目標設定について

バイオマス資源の利用方法としては、

- ①バイオマスをマテリアルとして直接利用、あるいは処理加工を行いマテリアルの原料とする、マテリアルとしての利用に加え、
 - ②バイオマスの直接燃焼、あるいは発酵させてメタンガスを収集し燃焼させることによるバイオガス発電等のエネルギーとしての利用
- の２種類があげられるが、技術開発の状況、社会情勢の変化によりその利用方法の優先度が大きく変わり得ると認識しており、またバイオマスの特性上、利用方法を明確に分けることは難しいと考えている。

現在、化学肥料の原料の多くを輸入に頼っているが、現下の諸情勢を踏まえ、肥料原料の確保が急務となっており、食料安全保障の観点からも国産バイオマスの肥料への利用は重要である。食料・農林水産業の持続性を確保するみどりの食料システム戦略の実現にあたって、国内資源での肥料の調達を推進していくこととしている。

また、バイオマスは限られた資源であることから、未利用資源の活用を推進するとともに、その利用に当たっては、まずは、バイオマスのマテリアル利用を重点的に実施し、その後エネルギーに使う、カスケード利用を推進することが重要と考えられる。

「バイオマスの利用についてはエネルギーに特化した目標を策定するのではなく、エネルギーも含めたバイオマスの利用率の向上を目指す目標とする」こととしたい。